令和５年２月 10 日

令和４年度　大阪府立羽曳野支援学校　第３回　学校運営協議会

進行　井川教頭

記録　森本教頭

日　時　令和５年２月 10 日（金）15 時～17 時

場　所　大阪府立羽曳野支援学校　図書室

参加者　亀田委員　井上委員　平賀委員　中條委員　前田委員

大門校長　井川教頭　森本教頭　川野事務長　多田首席　和田首席　岡田首席

宮地教諭　松村教諭

１　校長挨拶

ご多用の中、本日のご参加ありがとうございます。新型コロナウィルスについての捉え方に変化があり、５月からは５類になり今後世間での雰囲気も変わってくるかと思います。そのような中ですが、現段階では大阪教育庁からの具体的な通知はきておりません。病院によっても対応は様々ですが、羽曳野支援学校としては、今後も引き続き学習環境を整えながら学習保障に努めてまいりたいと思っております。本日は来年度に向けてのご助言をいただければ幸甚です。どうぞよろしくお願いいたします。

２　協議

①　学校自己診断アンケートの報告　（宮地教諭）

・重要項目の一つである「学校に行くのが楽しい」について、肯定的評価が一昨年度から昨年度にかけ増加し、今年度に至っても一層上昇している。しかしながら「そう思わない」と答えた児童生徒が４％＝数名いることを見落としてはいけないと考える。どの児童生徒も楽しいと感じるよう努力を続けることが、長期的かつ大きな課題と考えている。

・長年にわたって上昇を目指す必要があった「行事の充実」については、例年になく高い数値で肯定的にとらえられた。各委員会での取り組みが評価された結果と考える。コロナ禍というマイナスの状況からリモートでの行事実行を生み出したことが、教育実践をプラスの方向に転じさせたことによる好例と言える。

・医療関係者と学校との連携については例年と同じで比較的低い傾向で、これは

間接的な情報の伝わりから生まれるものと思われるが、このアンケートを好機に、よりいっそう連携を深め情報を伝えることの必要性があると考えている。

・全般的に今年度は例年の課題が改善される結果となった。しかしながら否定的評価も一定数存在しているので完璧を達成することはむろん容易にできることではないが、日々の努力の積み重ねで限りなく「楽しく学べる学校」を作ることに、全校をあげて取り組んでいきたいと考える。

（前田委員）　なぜ、担任教員への相談の値が下がっているか。

（宮地教諭）　教科によるリモート授業が増えたことによって、担任の教員と接する時間が少なくなったためと考えている。

（前田委員）　担任以外の教員でも接する時間があることは大切なことである。私の勤める学校でも授業をローテーションして、担任以外の教員との関わりを増やしている。

（平賀委員）　前籍校の教員と連携を取っていることは素晴らしいと思う。連携をとる上で工夫されていることはあるか。

（宮地教諭）　学習進度を聞くだけでなく、前籍校での子どもの絵日記や作文も送ってもらい、羽曳野支援学校でもそれを使って励ますようにしている。

（平賀委員）「夢や進路を話したことがあるか」の設問に、「そう思わない」という回答が多いが、とてもよいことであると私は考える。病気のことで悩んでいる子どもにとっては、将来のことよりも身近なことが大切であり、学校として肯定的に捉えてよいと思う。

（中條委員）「心身の状態について理解しようと努めている」項目について、ギャップがどこにあるのかを探る必要があり大きな課題としているが、とても大切な視点であると考える。子どもたちの心の深い部分を理解しようとする教員の姿勢がますます大事になってくると思う。

（亀田委員）医療関係者の一人として、医療だけのアプローチだけでなく教育のアプローチも大切であることを思う。キャリア教育も教科だけでなく人生を通しての教育を大切にしていることから、子どもたちへの接し方は、一部からのアプローチだけでなく様々なアプローチ、全体としてのアプローチが大事であると考える。

② 令和４年度　学校経営計画及び学校評価について
令和５年度　学校経営計画について（大門校長）

令和４年度学校経営計画については、以下の３点を柱に取り組んだ。

１　児童生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働の学びの充実

２　支援教育力の向上

３　安全で安心な学校生活をおくることができる学校づくり

学びという点では、学校教育自己診断アンケートにおいて、児童生徒による回答で「授業はわかりやすい」の肯定率 95%になり目標を達成することができた。昨年度の肯定率 93%からの上昇であり、授業は学習保障の根幹であるため、今後も授業改善に取り組んでいく。

令和５年度学校経営計画については、今年度の柱に以下の点を追加する。

４　教職員の働き方改革

教職員が効率の良い働き方ができるようグループウェア等を活用した「校務運営の効率化」をめざす学校づくりに努め、また全校一斉定時退庁日を設定し、教職員の業務量の適切管理等をすすめていく。

３　連絡報告事項

（１）令和４年度羽曳野支援学校の活動について

初任者からの報告（松村教諭）

・病弱支援教育については講義を聴くのみの理解であったが、本年度実際に病弱支援教育に携わることができ貴重な 1 年であった。教員の関係性がとてもよく、支援教育をするにあたって、チームティーチングの大切さを実感した。

・児童生徒の実態を踏まえた上での目標設定の難しさも感じた。医療目標や原籍校の目標を考慮し、退院後のことも意識して教育にあたる大切さも学んだ。

・来年度に向けて、児童生徒が居場所の一つとして学校が感じられるように、心のどこかに安心材料を一緒に作っていきたい。児童生徒の支援につながる専門性も高め、また先輩からアドバイスを受けた「自分の直感を信じて行動することが大切である」との言葉も大切にしていきたい。

４　閉会のあいさつ（大門校長）

本日は誠にありがとうございました。先生方から頂きましたご意見や励ましの言葉を胸に、来年度も児童生徒のために教育に取り組んでいきたいと思います。今年度も学校運営が円滑に進められましたことは、学校運営協議会の先生方のおかげであると心から感謝しています。1 年間ありがとうございました。そして来年度もどうぞよろしくお願いいたします。